

平成28年度 決算書

町の家計簿

ダイジェスト版

「北緯45度 癒しの里」

ロマン息づく大自然の町ー中頓別



目次

平成28年度決算状況	1
監査委員の決算審査意見	14

平成29年11月
中頓別町

平成28年度各会計の決算額は、下記のとおりです。

本年度の一般会計も含めた8会計の予算総額は、5,456,106千円で前年度と比較して、287,258千円の増額予算となりました。

歳入面では、予算総額に対し、70,489千円の減収となりましたが、5,394,280千円を確保し、一方歳出面では、予算総額に対し、258,660千円の不用額が発生し、5,206,109千円の執行となり、次年度に繰越して利用できる財源が188,171千円となりました。

本町は、町税等の自主財源が少なく、国から交付される地方交付税に頼っている財政基盤の脆弱な町であることから、今後とも財政の健全化を図りつつ、住民生活の向上や住民福祉の増進に努めてまいります。

以下個別の内容について申し上げます。



各会計ごとの決算状況

会計の名称		会計の内容	収入	支出
一般会計		町の一般的な仕事をする会計で下記の会計を除いたものです。	39億7,414万円	38億2,087万円
自動車学校		教習生の授業料などを収入に普通自動車免許、大型特殊免許の講習を行っています。	3,495万円	3,479万円
国民健康保険		国民健康保険税などを収入に加入者の医療費の給付などを行っています。	3億0,342万円	2億9,637万円
国保病院	収益的支出	医療収益を基に町民への医療サービスを行っています。	5億3,397万円	5億1,502万円
	資本的支出		1億0,421万円	1億1,292万円
水道	水道	水道使用料を収入に浄水場などの維持管理と町民への給水サービスを行っています。	8,965万円	8,906万円
下水道	下水道	下水道使用料を収入に終末処理場の維持管理と下水道サービスを行っています。	9,312万円	9,256万円
介護保険		介護保険料などを収入に要介護認定を受けた方に介護・支援サービスを行っています。	2億3,475万円	2億1,846万円
後期高齢者医療		老人保健制度に替わる制度で、保険料などを収入に広域連合などの負担金の支払いを行っています。なお、医療費などの給付は全道すべての市町村で構成する後期高齢者医療制度広域連合が行っています。	2,607万円	2,606万円
合計			53億9,428万円	52億0,611万円

財政健全化法による健全化判断比率及び資金不足比率

◆財政指標(1)

区分	健全化判断比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	15.0%	20.0%
連結実質赤字比率	—	20.0%	30.0%
実質公債費比率	2.6%	25.0%	35.0%
将来負担比率	—	350.0%	

※実質赤字比率、連結実質赤字比率は赤字がないため、比率は発生しませんでした。

※将来負担比率は将来の負担額より地方交付税で措置される額や基金(貯金)の現在高を合わせた額のほうが大きいいため、比率が発生しませんでした。

実質赤字比率

福祉や教育、観光や道路建設など行政運営の基本的な経費をまとめた一般会計における赤字の程度を指標化したもの

連結実質赤字比率

全ての会計の赤字や黒字を合算したうえで、町全体の赤字の程度を指標化したもの

実質公債費比率

一般会計の借入金返済額のほか、特別会計の借入金に対する負担額や借入金に準じた経費の負担額を合算して指標化したもの

将来負担比率

実質公債費比率の算定に基づく経費のほか、職員の退職手当、一部事務組合などの負債のうち、一般会計が将来負担する可能性のある額の大きさを指標化したもの

◆財政指標(2)

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
国民健康保険病院事業	—	20.0%
水道事業	—	
下水道事業	—	

※いずれの会計も赤字がないため、比率は発生しませんでした。

資金不足比率

それぞれの公営企業会計の赤字額を、料金収入などの事業規模と比較して指標化したもの

実質公債費比率

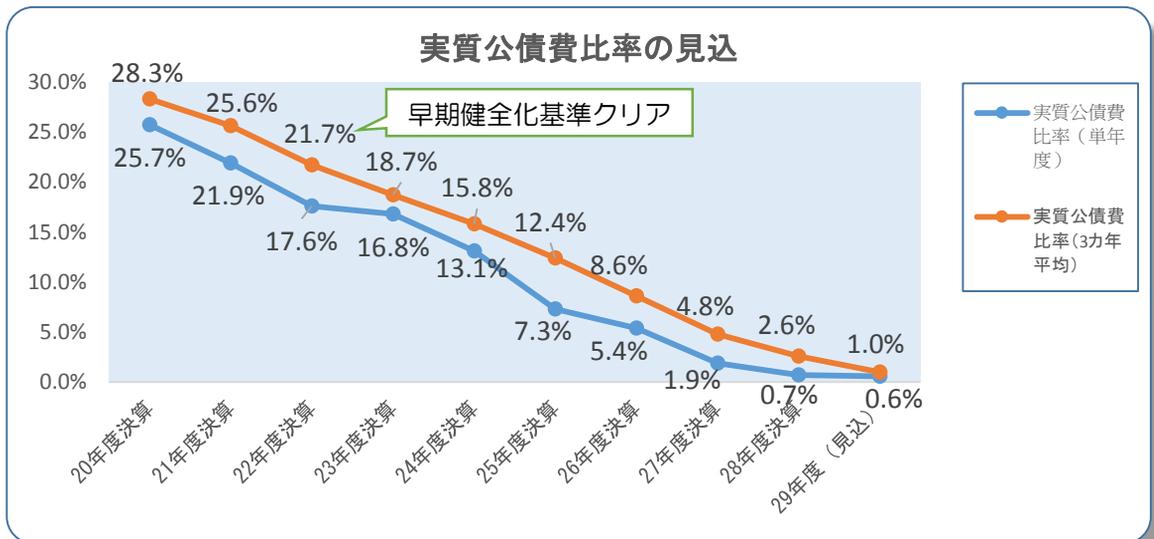
平成26年度～平成28年度の3カ年平均

2.6%

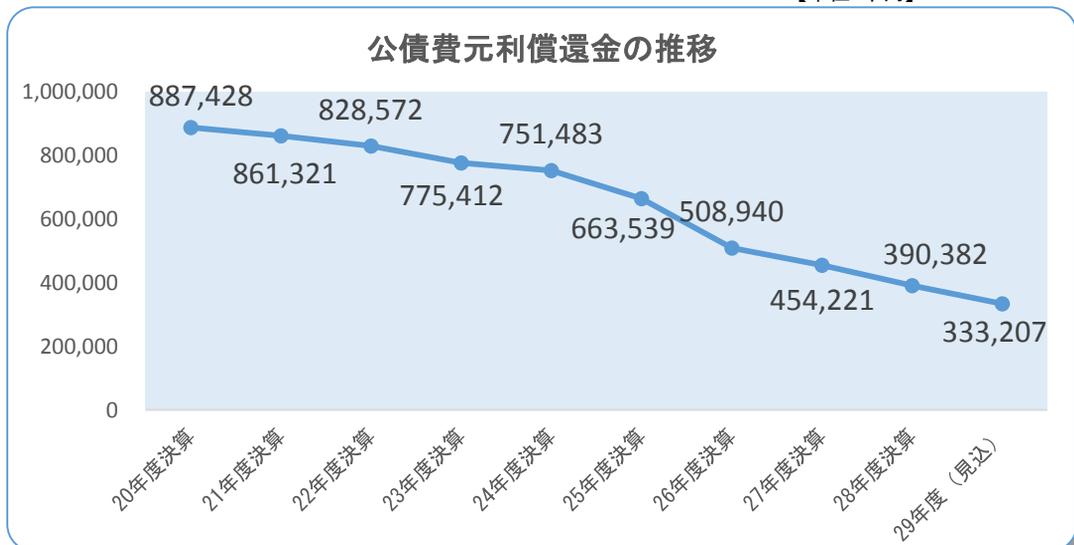
実質公債費比率とは、町の収入に対する町全体の借金返済額の比率を示す財政指標です。

今年度は、昨年度の実質公債費比率4.8%より2.2ポイント減少した結果、国の制約を受けない協議団体となっております。財政健全化法による健全化判断比率の実質公債費比率は3カ年平均で算定されます。

今後も引き続き地方債借入額を最小限に抑えるとともに、後年度の返済に係る財源を積み立てるなど、公債費負担の軽減を図りながら、財政運営の健全化に努めていきます。



【単位:千円】



※ 公債費元利償還金は、決算統計のルールに従って算出した推移ですので、決算の数値とは異なります。

なかとん 中屯真

さんちの

収入

1ヵ月の収入合計 40万3千円 (35万9千円) の内訳

給料 (71.7%)

28万9千円 (28万9千円)

基本給 1万6千円
町税 1億6千万円

能力(歩合)給 23万3千円
地方交付税 地方譲与税などの国 からの交付金 22億9千万円

手当 4万円
国庫支出金 道支出金 4億円



一般会計を
1世帯あたりに例えた場合

預金引き出し (3.0%)

1万2千円 (1万2千円)

繰入金 1億2千万円

パート収入 (4.7%)

1万9千円 (2万円)

使用料・手数料など 1億9千万円

ローン借入れ (17.2%)

6万9千円 (3万2千円)

町債 6億8千万円

前月からの繰越金 (3.4%)

1万4千円 (6千円)

繰越金 1億3千万円



今年は、給料が変わらないけれど、ローン借入れが増えたな～
繰越金は少し増えたけど、これからも、給料が減るかもしれないから、できるだけ借金をしないようにがんばらないと・・・

家計簿

【1ヵ月の計算方法】(例)
平成28年度支出→38億2千万円
×1/821(世帯数)÷12ヵ月=38万7千円

支出

1ヵ月の支出合計 38万7千円(34万5千円)の使い途



家賃・光熱水費(15.9%)
6万2千円(5万円)

総務費
6億1千万円



医療・衛生費(12.3%)

4万8千円(4万8千円)

衛生費
4億7千万円

衣料・食料費(28.9%)

11万2千円(6万8千円)

民生費・農林水産業費・商工費
11億円

子供の学費(4.3%)

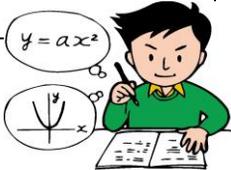
1万7千円(1万9千円)

教育費
1億7千万円

家や道路の整備代など(5.9%)

2万3千円(1万7千円)

土木費
2億3千万円



その他(20.0%)

7万7千円(9万円)

議会費・労働費・消防費など
7億6千万円

ローン返済(12.7%)

4万8千円(5万3千円)

公債費
4億8千万円

今年も昨年に引き続き将来に備えるための貯金ができたわ。でも、衣料・食糧費も増えてきているし、夫の給料も下がるかもしれないから将来が不安だわ。それにまだまだローンの返済が重くのしかかっているし、節約してがんばらなきゃね。



特別会計への繰出金



総額 5億484万円

(対前年比 5,620万円増えました)

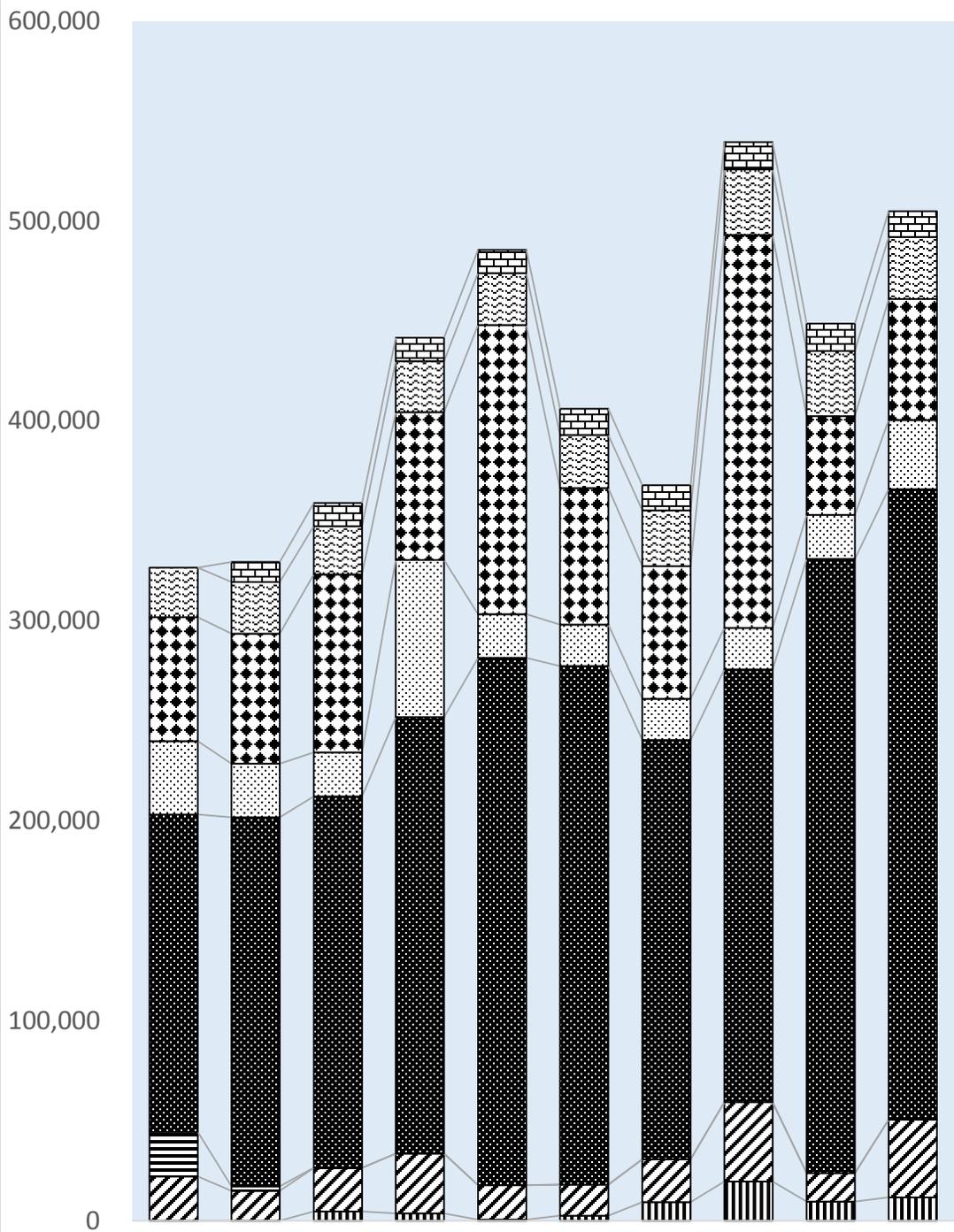
特別会計は独立採算性が基本です。お金が足りない場合は、一般会計の仕事を我慢してもらって繰り出すこととなります。つまり、町民の皆様へのサービスを一部我慢してもらうこととなります。この繰り出しが多いことは健全な財政とはいえません。ただし、特別会計繰出金の中には国の制度により繰り出すもの（ルール分）があります。このルール分は削減できませんが、それ以外の不採算運営費（赤字）に伴う繰出金の削減が、財政の健全化のための重要な課題といえます。

	平成28年度	平成27年度	増減
☆ルール分のみ繰り出しの会計			
●国民健康保険へ	3,874万円	1,429万円	2,445万円
●介護保険へ	3,101万円	3,256万円	▲ 155万円
●後期高齢者医療へ	1,294万円	1,368万円	▲ 74万円
☆不採算運営費補てんのある会計			
●自動車学校へ	1,172万円	960万円	212万円
うち不採算分	1,172万円	960万円	212万円
●国保病院へ	3億1,540万円	3億0,704万円	836万円
うち不採算分	2億3,644万円	1億9,398万円	4,246万円
●水道へ	3,446万円	2,199万円	1,247万円
うち不採算分	1,378万円	130万円	1,248万円
●下水道へ	6,057万円	4,948万円	1,109万円
うち不採算分	3,882万円	2,909万円	973万円

(単位:千円)

事業名	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
自動車学校	—	—	4,700	3,760	600	2,492	9,389	19,669	9,600	11,720
国民健康保険	53,607	14,970	21,641	29,904	17,231	15,600	21,338	39,605	14,292	38,743
老人保健	22,230	2,323	140	—	—	—	—	—	—	—
国保病院	158,714	184,511	185,749	218,106	263,624	259,297	209,631	216,401	307,038	315,395
水道	36,600	26,814	21,936	78,628	21,937	20,684	20,684	20,685	21,989	34,461
下水道	62,050	65,000	89,000	74,000	144,500	68,300	66,260	196,630	49,484	60,567
介護保険	24,763	25,732	24,147	25,433	25,959	26,506	27,941	32,850	32,556	31,008
後期高齢者医療	—	10,072	11,543	11,811	11,603	13,107	12,600	13,491	13,681	12,943
合計	357,964	329,422	358,856	441,642	485,454	405,986	367,843	539,331	448,640	504,837

(単位:千円)



平成19年 平成20年 平成21年 平成22年 平成23年 平成24年 平成25年 平成26年 平成27年 平成28年

- 自動車学校
- 国保病院
- 介護保険
- 国民健康保険
- 水道
- 後期高齢者医療
- 老人保健
- 下水道

平成28年度に行った主な事業

■道路

町道の整備(以下の2路線及び橋梁の整備を行いました。)

1億0,992万円

・中頓別駅向線交付金事業

2,771万円

改良・舗装工事 66m

(中頓別弥生線交差点から消防支署裏までの区間)

・町道1条仲通線整備事業

4,670万円

改良・舗装工事 177m

(斉藤新聞店さんから村山さんまでの区間)

・橋梁修繕事業

2,138万円

橋梁長寿命化修繕設計業務委託

上頓別原野線平野橋修繕工事

・長寿命化修繕計画

1,413万円

町内26橋の橋梁点検業務(近接目視点検)



■農業

中山間地域等直接支払交付金交付事業

3,169万円

農地面積に応じて交付金を交付し、農地の保全等を図るための取り組みを行いました。

酪農振興支援補助事業

1,476万円

町内の酪農戸数が年々減少を続けており、地域の生産力も減少している状況にあることから、乳牛の飼養施設等の整備・改修等に対して助成を8戸に行いました。

小規模・多機能ミルクプラント拠点づくり事業

3,135万円

地域で生産される生乳を地域で消費できるようにするため、農業体験交流施設を活用し、乳処理業の許可を取得し、地域ブランド牛乳として小規模な牛乳製造施設を整備し、飲用乳の販売を開始しました。

■林業

森林管理道弥生線開設事業(完了)

3,830万円

林道開設 324m (総延長 4,180m)

林業専用道天北線開設事業

2,093万円

小頓別地区の北電変電所施設付近から音威子府方面への林道開設に向けた全体計画調査を行いました。



■商業

商業振興支援補助事業

商工業の事業拡大や設備の整備改修や、後継者への事業継承を円滑に進めるための助成を7件に行いました。

1,279万円

■生活

賃貸住宅建設促進助成事業

町民の賃貸住宅を建設する方(3棟16戸)に対して、その一部を助成して、良質な賃貸住宅の供給促進と町民の定住促進を図っています。

4,800万円

特別養護老人ホーム施設整備助成事業

老朽化委した特別養護老人ホームの増改修事業に係る経費を助成しました。

3億5,828万円

臨時福祉給付事業

平成26年4月からの消費税8%の引き上げに伴い、低所得者の負担の影響を鑑み、社会保障の充実のため、臨時的に給付金を支給するための諸経費を計上しました。

1,118万円

■病院

施設大規模改修事業

設置が義務付けられているスプリンクラーを新規に設置するとともに、老朽化してシテ排水設備などを更新しました。

8,801万円



一般会計 普通建設事業の推移



紙面等の都合により、臨時的かつ金額の大きい事業のみ掲載しました。なお、詳細の資料を希望する方は中頓別町役場総務課政策経営室までご連絡ください。また、中頓別町ホームページで詳細資料を掲載しておりますので御利用ください。

中頓別町HPアドレス

<http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp/>



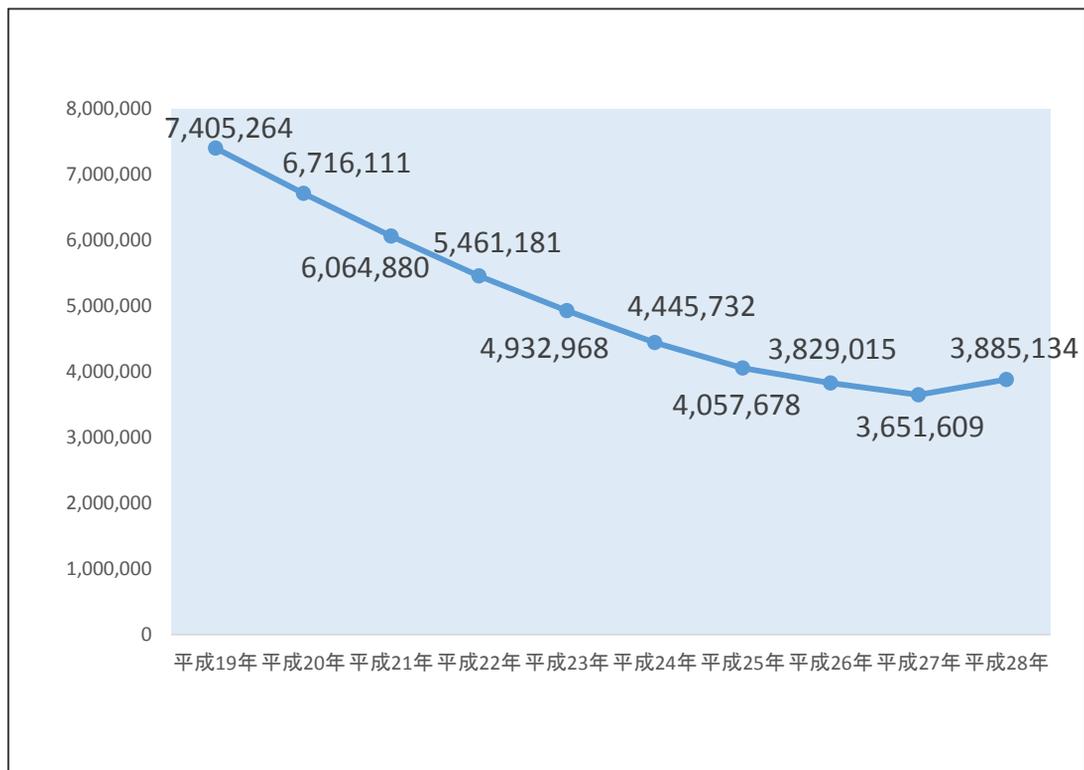
借金（一般会計）

38億8,514万円

(対前年比 2億3,353万円増えました)

平成27年度末	平成28年度	平成28年度	平成28年度末
地方債残高 + 借入高 - 返済高 = 地方債残高			
36億5,161万円	6億8,167万円	4億4,814万円	38億8,514万円

中頓別町のこれまでの借入金残高の状況(一般会計)



公共事業を抑制したことにより借入金残高が、年々減少傾向にありましたが、特別養護老人ホームの増改築に伴い借入額が増加しております。

これらの借入金のうちの多くは、返済額の一定割合を地方交付税で国から交付されるしくみになっています。たとえば、もっとも借入額が大きい「過疎債」では、元利償還金の70%が地方交付税で補てんされます。町は公共事業を実施する場合、こうした有利な「借金」を活用するように工夫してきました。

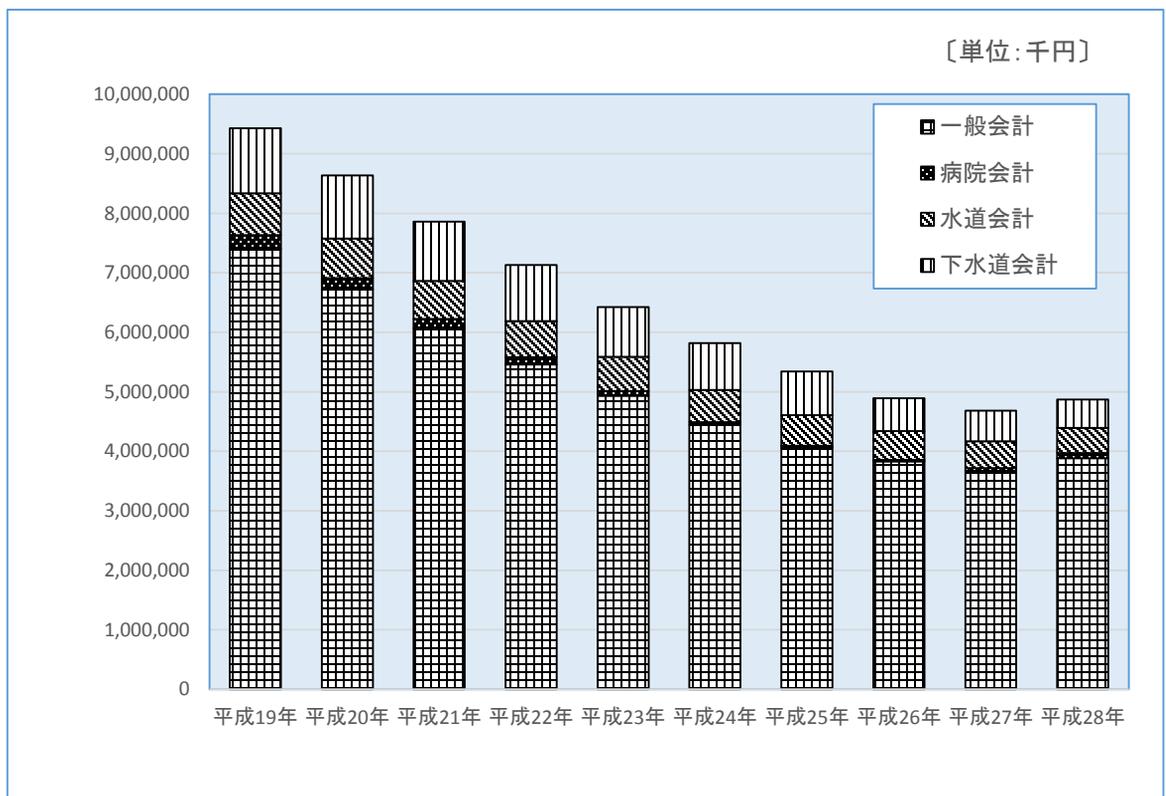
さらに、平成28年度より借金をする場合に、返済に係る財源として交付税で補てんされない分を積み立てております。このことで、後年度の負担が実質無くなることとなります。

借金 (全会計)

48億6,731万円
(対前年比 1億8,512万円増えました)

	平成26年度末 地方債残高		平成27年度 借入高		平成27年度 返済高		平成27年度末 地方債残高
一般会計	36億5,161万円		6億8,167万円		4億4,814万円		38億8,514万円
水道会計	4億5,262万円				3,209万円		4億2,053万円
病院会計	6,378万円	+	3,100万円	-	783万円	=	8,695万円
下水道会計	5億1,418万円				3,949万円		4億7,469万円
計	46億8,219万円		7億1,267万円		5億2,755万円		48億6,731万円

中頓別町のこれまでの借入金残高の状況



独立採算を基本としている公営企業（水道、下水道、病院）においても事業を実施するため、起債（借金）の借入を行っており、その存在する借金は中頓別町が支払うべき借金総額となります。（南宗谷消防組合や南宗谷衛生施設組合などの一部事務組合に対しての負担金にかかる分は含まれておりません。）

貯金

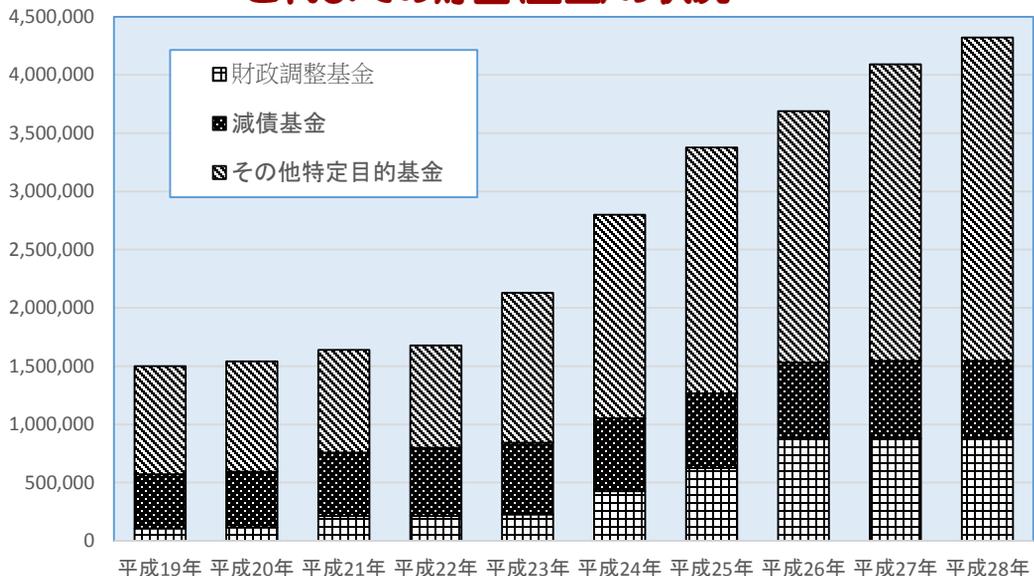
43億2,201万円

(対前年比 2億3,104万円増えました)

	平成28年度	平成27年度	増減
財政調整基金	8億7,807万円	8億7,782万円	25万円
減債基金	6億6,717万円	6億6,702万円	15万円
長寿園施設改修拡張事業基金	3億7,271万円	4億3,994万円	▲ 6,723万円
天北線代替輸送確保基金	3億0,339万円	3億0,330万円	9万円
畜産振興基金	3,059万円	2,974万円	85万円
まちづくり基金	1億2,647万円	1億2,668万円	▲ 21万円
土地開発基金	2,201万円	2,201万円	
地域福祉基金	1億1,445万円	1億1,443万円	2万円
中山間水と土保全基金	623万円	623万円	
豊かな環境づくり基金	474万円	473万円	1万円
ふるさと応援寄附基金	840万円	749万円	91万円
公共施設整備等基金	8億0,070万円	7億0,052万円	1億0,018万円
地域活性化基金	4億9,737万円	4億2,298万円	7,439万円
未来を担うこどもの健全育成と教育の基金	2,484万円	1,569万円	915万円
地方創生基金	4億5,775万円	3億4,528万円	1億1,247万円
介護保険給付費準備基金	711万円	711万円	
水道事業特別会計基金	1万円		1万円

これまでの貯金(基金)の状況

[単位:千円]



＜コラム＞公表されている決算等の数値に相違が生じる場合があります。

この、「町の家計簿」に用いている数値、金額については、各会計での決算書の数値をもとにつくっています。

しかし、他の財政数値として公表されるもののほとんどが決算統計（地方財政状況調査）で集計された数値を使うのが一般的とされています。また、財政状況を示す数値（経常収支比率、実質公債費比率など）やこの後に掲載している、貸借対照表（バランスシート）、行政コスト計算書についても決算統計で集計された数値を使っています。

各会計決算書と決算統計で集計をする場合に根拠（集計上のルール）が異なるため、数値が異なる場合が生じますので、あらかじめご了承ください。

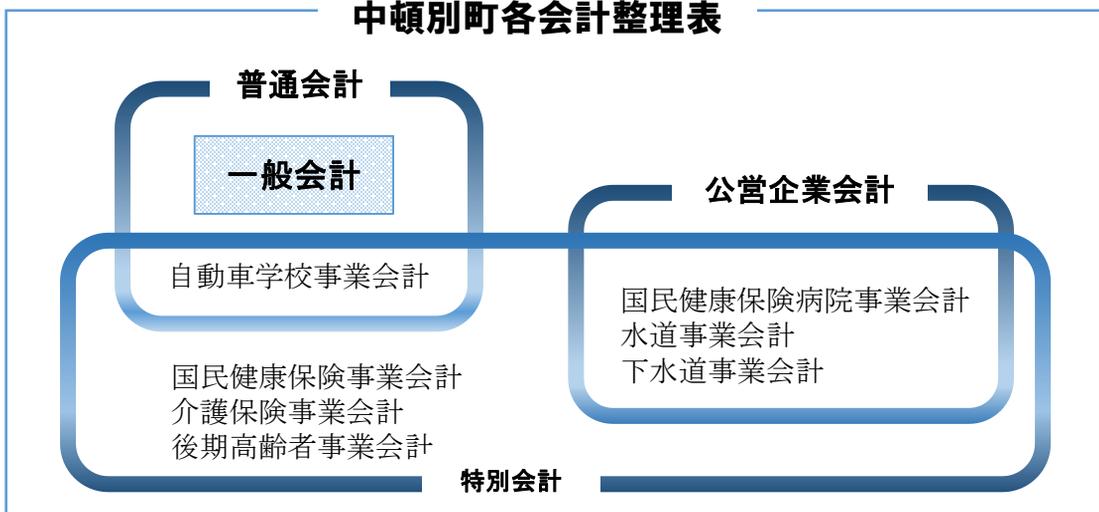
異なる内容として、一例をあげますと、現在、一般会計で、償還（借金の返済）してる起債の一部において、水道、下水道、病院に係るものが含まれています。決算統計のルールとして、そうした費用については、それぞれの公営企業決算統計にて計上することとされているため、普通会計での決算統計では除外されているからです。また、人件費についても、予算決算では総務費で議会、教育、水道等の特別会計を除く全ての人件費を支出しています。しかし、決算統計では、これらの人件費をそれぞれの目的（民生費、土木費など）に振り分けて計上しています。こうしたルール上の金額の組み換え、除外が数点あるため、決算上の数値と決算統計上の数値と異なるという現象が生じてきます。

さらに、各種数値について、一般会計、普通会計、〇〇特別会計、公営企業会計等さまざまな財務上の括りがあり、どこの数値を公表しているのか、その表題に必ず記述するようにしていますので、ご確認ください。

※各会計について、わかりやすく記述すると下記のとおりとなります。

今後、数値を公表する場合には、決算統計の数値を載せています等の注釈を記述し、よりわかりやすい数値、資料の提供を行っていきたいと考えています。

中頓別町各会計整理表



※決算統計上の会計区分

監査委員の決算審査意見

平成28年度中頓別町各会計歳入歳出決算審査は、平成29年6月23日から8月18日（中頓別町国民健康保険病院事業会計）、7月25日から8月18日（中頓別町一般会計等その他全会計）の日程で行われました。監査委員からの決算審査意見書の要旨をお知らせいたします。

~~~~~

### 決算審査意見書の要旨

#### 1. 中頓別町国民健康保険病院事業会計

##### (1) 現状

平成28年度国保病院事業会計決算は、損益計算書で5,000千円の純利益となり、累積欠損金は110,000千円となっている。

収益的収支の一般会計繰入額が前年度の237,505千円から本年度278,913千円と41,408千円増加しており、普通交付税の減少が見込まれる中、他の特別会計と同様に町の財政運営を大きく圧迫している。

町内に養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、知的障害者更生施設を有していることや高齢者比率38.8%という状況を考慮すると、現在50床の病院機能を維持していくことが求められるが、将来的に北海道の地域医療構想に基づき有床診療所への転換を検討する必要があると考えられる。

しかし、常勤医師1名体制、欠員看護師を採用できないことから、医師については地域医療振興財団、医育大学医局等から、看護師については民間事業者からの派遣により運営していることから費用が割高となり、医業費用に占める給与費の割合が平成28年度においては70.3%と高く、患者数も医師1名では限界であり、1日平均入院15名外来57名と低迷していることから医業収益の低下を招いている。

##### (2) 改革の方向性

常勤医師、看護師の確保による医業費用に占める給与費の逡減と、患者数増による医業収益の向上により運営の効率化を図ることが重要である。



| 項 目 |              | 平成28年度  | 平成27年度  | 増減      |       |
|-----|--------------|---------|---------|---------|-------|
| 入院  | 患者数          | 延 数     | 5,593人  | 6,337人  | ▲744人 |
|     |              | 1日平均    | 15.3人   | 17.3人   | ▲2.0人 |
|     | 患者1人1日当り診療収入 | 22,577円 | 26,116円 | ▲3,539円 |       |
| 外来  | 患者数          | 延 数     | 13,932人 | 13,794人 | 138人  |
|     |              | 1日平均    | 57.3人   | 56.8人   | 0.6人  |
|     | 患者1人1日当り診療収入 | 6,173円  | 8,153円  | ▲1,979円 |       |

### (3) 具体的な改革事項

#### ① 常勤医師の確保

深刻な都市部への医師偏在により過疎地域における医師確保は極めて困難を伴うが、国に対して医師の地域偏在及び地域格差解消と自治体病院の経営安定のための財政支援を求める声を発し続けながら、関係機関医育大学、民間への募集活動を継続すべきである。

#### ② 看護師の確保

医師及び看護師等の養成に関する条例に基づく財政支援や看護師宿舎などの福利厚生施設を充実させるとともに、出産後も働き続けることができる、子ども子育てに関する取り組みをアピールポイントとして養成機関への募集活動を強化すべきである。

### (4) 留意すべき事項

医師確保について、給与面においてある程度高額な待遇を保障しなければならぬことに対する議会を含めた住民合意と、常勤医師2名体制になった後も長期間勤務してもらうため学会、研修機会を保障するための派遣医師を継続する必要があることから、支出削減に向けた検討が必要である。

一方、常勤医師2名体制により、受け入れ可能患者数は増加すると思われるが、近隣町村も含めて過疎化による人口減少が進行している現状では、飛躍的に患者数が増加することを見込むことはできないため、平成27年度から開始した訪問看護事業、平成28年度から開始したリハビリテーション事業の充実など病院経営の検討が必要と考える。

## 2. 一般会計及び特別会計（国民健康保険病院事業会計を除く）

平成22年度において早期健全化団体（実質公債費比率判断基準25.0%以下）から脱却し、平成28年度においては2.6%と着実に財政の健全化が図られている。

しかし、財政力が脆弱な本町にとっては歳入の5割を超える地方交付税が財政健全化法4指標の算定基礎となる標準財政規模（分母）に大きく影響し、国の経済情勢、本町の人口減少などから、平成29年度においても想定を上回る減少となっていることから、将来とも安定した交付額を期待することはできない。

平成28年度末の公債借入残高（町債元金）は、48億6千7百万円（前年度末46億8千3百万円）とまだまだ重い負担であることから、さらなる行財政改革をすすめ、各種財政指標の逡減を図ることが重要である。

審査の結果、前年度指摘事項に対する改善があったことは評価するが、下記について指摘事項が認められたので改善を図りたい。

### （指摘事項）

- ① 町税の収入未済額の解消については、催告、督促、さらに差押え処分も行われており、職員の努力により前年度317千円減少し改善が図られている。それでも、病院会計を除く平成28年度末の収入未済額は9,436千円に達しており、景気の低迷、所得格差の拡大など社会的な増加要因はあるが、納税者、利用者に対して不公平感を与え、納税、納付意欲の低下を招くことがないよう、より一層収入未済額の減少に努めていただきたい。
- ② 平成28年度国民健康保険税賦課事務について、課税限度額の算定誤りにより23件の対象者に対し912,700円の賦課漏れが生じた件、また、国民健康保険税賦課システムによる軽減判定の誤り1件26,600円の過少徴収が判明するなど、結果として追加納付をお願いすることになったことは、町民の行政に対する信用を失墜させる結果となり、極めて憂慮すべきことである。町民の信頼回復のため、強い反省と再発防止に万全を期すことを求める。

例年掲載していますが、財務書類4表（貸借対照表、行政コスト計算書、純試算変動計算書、資金収支計算書）については、公会計制度の改正により今年度中に新地方公会計統一基準での作成が必要となりました。

新たな財務諸表につきましては、今年度末の完成を予定しておりますので、改めてお知らせいたします。



**発行：中頓別町**

**編集：総務課政策経営室**

〒098-5595

北海道枝幸郡中頓別町字中頓別172番地6

TEL (01634) 6-1111 FAX (01634) 6-1155

<http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp/>